

【基本情報】

クラブ名	セレッソ大阪		
活動テーマ	Jリーグ公式戦運営業務サポート		
実施場所	ヨドコウ桜スタジアム		
活動部署	営業部		
参加者	上林 豪		
活動期間	2025 年6月4日(水)		

【活動報告詳細】

■活動目的

クラブ運営の裏側を学び体験することでJリーグやクラブを支えている人々の存在に気づき、感謝の理由を実感する。

■活動内容

ホームスタジアムにて、公式戦前に「SAKURA ROOM」というスポンサー様が年間で購入された部屋を訪問し、日頃の感謝を伝え写真撮影やサイン対応を行う。

■選手コメント

神林 豪 選手

今回のスポンサー訪問を通じて、私たちプロサッカー選手がどれだけ多くのステークホルダーの方々に支えられているのかを強く実感しました。このスポンサー訪問では、「SAKURA ROOM」と呼ばれるスポンサー企業様が年間単位で購入してくださった部屋を回ってご挨拶させていただくのですが、営業の場として使用されていたり、家族で来られていたりなど、その用途は様々でした。そんな中、「頑張ってください」や、「応援しています」といった言葉をかけていただきました。

セレッソ大阪というクラブは多くの方々に支えられていて、そのクラブを背負い闘う選手として社会的責任のある行動を取らなければいけないと感じたと同時に、感謝をプレーで表現するだけでなく、社会貢献活動などサッカー選手だからこそできることもしていこうと感じました。

■活動写真



【基本情報】

クラブ名	セレッソ大阪		
活動テーマ	シャレン活動		
実施場所	ボ・ドーム大念仏(児童養護施設)		
協働団体	セレッソ大阪	ボ・ドーム	大阪市児童養護施設連盟
参加者	上林 豪	古山 兼悟	
活動期間	2025 年9月 17 日(水)		

【活動報告詳細】

■活動目的

- ・社会連携とは何かを学び、様々なステークホルダーと活動することでJリーグ 選手として活躍するために沢山の人が関わっていることを肌で感じ、選手としての役割を自覚する。
- ・社会人の基礎として、外部への報告書作成を試みる。

■活動内容

家庭の事情で親と一緒に暮らせない子どもたちが安全に学び、成長し、生活する児童養護施設に行き、サッカー教室を行い、サッカーを通じて子どもたちと触れ合い、教育や健康などを促す活動を行った。

■選手コメント

上林 豪選手

今回のシャレン！活動を通じて初めて児童養護施設に行きました。自分が抱いていた児童養護施設のイメージは少し暗く、どこか足を踏み入れがたい場所といったものでした。しかし、実際に行くと元気で活発な子どもたちばかりで、サッカー教室が進むにつれてその元気は更に増していきました。世の中には様々な家庭環境があり、まだ精神的にも幼い子どもたちは寂しい想いや辛い想いをしているかもしれません。しかし、そんな中でも強く逞しく生きるみんなに私が元気をもらいました。この活動で出会ったみんなが自慢できるような選手になれるよう、日々成長したいと思ったと同時に、様々な社会問題にも関心を持ち、その改善にできることはないか考えを広げたいと感じました。

古山 兼悟選手

始めに、自分がプロサッカー選手として、子どもたちにサッカーを教える立場になったということは子どもに夢を与えていけるようにならないといけないということを改めて実感することができた。活動では子ども達がとても積極的に参加してくれてやり易かった。その中で、ボール一つで人が繋がることができるということが分かった。今回のサッカー教室のような活動があれば積極的に参加していきたいと思ったのと、自分でも開催できるのであればやってみたいと思った。

■活動写真

